

財務概況

業績の概要

(億円)

	2017.3	2018.3	2019.3	2020.3	2021.3	2020.3/2021.3 増減比
売上収益	2,448	2,618	2,886	2,924	3,093	+5.8%
営業利益	723	607	620	775	983	+26.9%
当期利益(親会社の所有者帰属分)	558	503	515	597	754	+26.3%

売上収益の状況

売上収益は、前期比169億円(5.8%)増加の3,093億円となりました。

- 抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」は、競合環境が厳しくなるものの、食道がんへの使用が拡大したことなどにより、前期比115億円(13.2%)増加の988億円となりました。
- その他の主要新製品では、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は255億円(前期比2.1%減)、糖尿病および慢性心不全治療剤「フォシーガ錠」は224億円(同23.7%増)、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は219億円(同10.4%増)、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサピブ静注透析用」は81億円(同13.9%増)、多発性骨髄腫治療剤「カイプロリス点滴静注用」は71億円(同18.8%増)となりました。
- 長期収載品は、後発品使用促進策の影響を受け、アルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」は66億円(前期比22.5%減)、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」は55億円(同34.5%減)、骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」は29億円(同39.9%減)となりました。
- ロイヤルティ・その他は、前期比79億円(9.1%)増加の947億円となりました。

(億円)

	2020.3	2021.3	前期比
製品商品	2,056	2,145	+4.3%
ロイヤルティ・その他	868	947	+9.1%

損益の状況

営業利益は、前期比208億円(26.9%)増加の983億円となりました。

- 売上原価は、製品商品の売上が増加したことに加え、無形資産償却費が増加したことなどにより、前期比65億円(8.2%)増加の856億円となりました。
- 研究開発費は、大学や研究機関との共同研究費やバイオベンチャーとの創薬提携にかかるマイルストンの支払いなどが増加しました。一方で、昨年6月以降、被験者登録を含めた開発活動を再開しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により治験費用が減少したことから、前期比41億円(6.2%)減少の624億円となりました。
- 販売費及び一般管理費(研究開発費を除く)は、新型コロナウイルス感染症の影響によるMRの医療機関訪問自粛などにより営業活動経費が減少しました。一方で、積極的なWeb講演会の実施、自社サイトのコンテンツ拡充や新たな営業プラットフォームの活用に伴う費用が増加するとともに、新製品上市および効能追加に係る費用や「フォシーガ錠」の売上拡大に伴うコプロフィーが増加したことなどにより、前期比16億円(2.3%)増加の692億円となりました。
- その他の収益は、昨年11月にロシュ社から抗PD-L1抗体関連特許に関するライセンス契約締結に伴う契約一時金を得たことなどにより、前期比73億円増加の82億円となりました。

(億円)

	2020.3	2021.3	前期比
売上原価	791	856	+8.2%
研究開発費	665	624	△6.2%
販売費及び一般管理費	677	692	+2.3%

親会社の所有者に帰属する当期利益は、税引前当期利益の増加に伴い、前期比157億円(26.3%)増加の754億円となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、営業活動によるキャッシュ・フローが740億円の収入となったものの、投資活動によるキャッシュ・フローが576億円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが248億円の支出となったことにより、前連結会計年度末の690億円に比べて80億円(11.5%)減の610億円となりました。

〈営業活動によるキャッシュ・フロー〉

当連結会計年度において営業活動によるキャッシュ・フローは、740億円の収入(前連結会計年度は742億円の収入)となりました。主な内訳としては、法人所得税等の支払額341億円などがあつた一方で、税引前当期利益1,009億円などがありました。

〈投資活動によるキャッシュ・フロー〉

当連結会計年度において投資活動によるキャッシュ・フローは、576億円の支出(前連結会計年度は102億円の支出)となりました。主な内訳としては、定期預金の預入による支出(純額)501億円や無形資産の取得による支出133億円などがありました。

〈財務活動によるキャッシュ・フロー〉

当連結会計年度において財務活動によるキャッシュ・フローは、248億円の支出(前連結会計年度は547億円の支出)となりました。主な内訳としては、配当金の支払額224億円などがありました。

(億円)

	2020.3	2021.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	742	740
投資活動によるキャッシュ・フロー	△102	△576
財務活動によるキャッシュ・フロー	△547	△248
現金及び現金同等物の期末残高	690	610

設備投資

当連結会計年度の設備投資につきましては、研究設備の増強・維持投資60億円、生産設備の増強・維持投資16億円、営業設備等の増強・維持投資15億円など、合計91億円の投資を実施しました。

今後の見通し

〈売上収益〉

次期につきましては、2021年4月の薬価改定の影響や競合品との競争激化など、厳しい事業環境が続くものと予想されます。「オプジーボ点滴静注」は、競争環境が激化する一方で、肺がん領域一次治療や食道がんでの使用拡大、胃がん一次治療への参入を見込んでおり、当期比112億円(11.3%)増加の1,100億円を予想しています。その他の主要新製品では、昨年、慢性心不全の効能が追加された「フォーガ錠」やBRAF陽性の結腸・直腸がんの効能が追加された「ピラフトピカプセル」「メクトビ錠」、さらに「オレンシア皮下注」「カイクロリス点滴静注用」などの売上拡大が見込まれることに加え、複数の新製品の発売や効能追加を見込んでいます。また、ロイヤルティ・その他は、ロイヤルティ収入が引き続き伸長する見込みであり、当期比103億円(10.8%)増加の1,050億円を見込んでいます。以上のことにより、売上収益は当期比357億円(11.5%)増加の3,450億円を予想しています。

〈損益〉

売上原価は、製品商品の売上増加に伴い、当期比94億円(11.0%)増加の950億円を見込んでいます。

研究開発費は、持続的成長を実現すべく積極的な投資を行うため、当期比96億円(15.4%)増加の720億円を見込んでいます。販売費及び一般管理費(研究開発費を除く)は、新発売見込品および既存製品の適応追加に係る活動経費の増加や、IT・デジタル関連の情報基盤投資を積極的に行うことにより、当期比48億円(6.9%)増加の740億円を見込んでいます。

以上のことにより、営業利益は当期比47億円(4.7%)増加の1,030億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は当期比61億円(8.1%)増加の815億円と予想しています。

(億円)

	2022.3(見込)	当期比
売上収益	3,450	+11.5%
製品商品	2,400	+11.9%
ロイヤルティ・その他	1,050	+10.8%
営業利益	1,030	+4.7%
当期利益(親会社の所有者帰属分)	815	+8.1%

(注)新型コロナウイルス感染症により、引き続き一定の活動制限が継続されることを想定していますが、営業利益に与える影響は軽微であると見込んでいます。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示します。